

豆腐や納豆、ポテトチップなどのラベルにある「遺伝子組み換えでない」という表記  
**遺伝子組み換え作物（不自然な食べもの）は、どこから来るのだろうか？**

農業大国フランスで150万人が観た「食」、ひいては「いのち」をめぐるドキュメンタリー  
ヨーロッパ各国のGMO(遺伝子組み換え作物)政策にも大きな影響を与えた話題作！

映画上映会&座談会

モンサントの

# 不自然な食べもの



2013年3月30日(土)

とみうら元気倶楽部さざなみホール

【昼の部】開場 13:20 上映 14:00~16:00

【座談会】開場 16:00 座談会 16:15~17:15

【夜の部】開場 18:30 上映 19:00~21:00

前売券 1,000円 当日券 1,200円

※座談会は映画チケットで入場できます

●●●託児(未就学児まで)●●●

昼の部のみ/定員20名(先着順)/300円

チケット購入後3/22(金)~29(金)にメール予約。

主催:「モンサントの不自然な食べもの」あわ上映委員会

後援:南房総市教育委員会、館山市教育委員会

お問合せ:0470-36-3059(八木)

Hooponopono2012.12.26@gmail.com(本明)

託児申込:eiganotakuji@yahoo.co.jp(沼倉)

前売券販売所:【館山市】宮沢書店・アイスカフェ CowBoy・上野商店・小倉商店・おやつマルシェ・田中金物店・百笑園

【南房総市】えーころ屋・SHELLS・助産院ねむねむ【鴨川市】Cafe SASAYA・鴨川自然王国・ジョイスササキ【鋸南町】マツオカ

## [この映画について]

遺伝子組み換え種子の世界シェア90%を誇る巨大グローバル企業モンサント社のクリーンなイメージに隠された裏の姿を追うドキュメンタリー。

遺伝子組み換え作物、枯葉剤、農薬、PCB、牛成長ホルモンを発売してきた、1世紀にわたるモンサント社のヴェールに包まれた歴史を貴重な証言や機密文書によって検証し、生物の根幹である「タネ」を支配し利益ばかりを追求する現在の「食」の経済構造に強い疑問を投げかける。

農業、食の安全、医療、あらゆる分野で影響があるとされるTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）など、急速に進む経済のグローバル化。作中に登場するアメリカやメキシコの深刻な状況は、すでにグローバリズムに巻き込まれつつある、日本の明日の姿かもしれない。

### 監督：マリー＝モニク・ロバン

遺伝子組み換え作物が環境や人体に与える影響は計り知れません。食べることは、生きることです。知ることで守れる未来があります。



(2008年 / フランス、カナダ、ドイツ / 108分)

## [上映会開催にあたって]

食料自給率が低い日本に生きる私たち。安いということだけで食べものを選んでいたら、どんな結果を招くことになるのか。遺伝子組み換え作物は日本の食、農、そして子どもたちの未来へどんな影響を及ぼすのか。そんなことを一緒に考えるきっかけをつくりたいと思い企画しました。

## [座談会]

安房地域で農に携わる3人を囲んで、これからの食のこと、一緒に考えませんか？

田中正治(ネットワーク農縁/新庄水田トラスト世話人)

八木直樹(やぎ農園) 渡邊和彦(南風農場)

「タネ」を支配し、利益ばかり追求する遺伝子組み換え作物世界シェア90%のグローバル企業から食の安全を守るにはどうしたらいいの？

